

理学部では、工学部とともに（理工学研究科として）学生の海外留学をサポートしています。昨年、グローバル人材育成支援室という組織が設置されました。私もその委員として、昨年の8月末に米国カリフォルニア州のサンディエゴとサンノゼを訪問し、受入交渉を進めて参りました。そして、サンディエゴ州立大学とサンノゼ州立大学の協力が得られ、この6月から理工学研究科の1年生13名が3～4ヶ月間の海外留学に旅立つことになりました。この制度（大学院理工系イノベーション海外研修；GOES）の導入には多くの課題がありました。例えば、通常3ヶ月以上の海外留学を希望する場合、修了要件の講義を欠席しなければならず、留年が必至でした。そこで、前期をさらに前半と後半の2期に分け、後半のカリキュラムを空けることで、留年なしに3ヶ月以上の留学が可能になりました。カリキュラムの変更の他にも、単位認定や受入体制の問題、金銭面についてもひとつずつクリアしました。GOESの実現には、理工学研究科長、各学部長以下、多くのスタッフの努力と協力があったからに他なりません。そして5月26日、留学に先立ち、留学予定者の壮行会がありました。13名の留学予定者のうち、理学系（理学部出身者）は2名、物理・宇宙専攻の山下美咲さん（左写真、左）と生命化学専攻の山下莉歩さん（右）です。ダブル山下は偶然です。莉歩さんはサンノゼで、美咲さんはサンディエゴとサンノゼでそれぞれ語学研修、専門の講義、企業研修、ホームステイ等を通じてさまざまな経験を積む予定です。

また、理学部同窓会の川畑会長が鹿児島県海外移住家族会の会長をされていることもあり、鹿児島大学は移住者子弟の留学生と交流していて、南米からも多くの留学生を受け入れて参りました。今年はブラジルとペルーから3名の日系人が約1年間の予定で来日されています。そして、来日間もない4月18日、南九州市川辺町に陶芸体験に行きました。偶然にも松田さん（右写真、中央）のご曾祖父母様は川辺のご出身でした。3人は茶碗やマグカップなどを作りました。ろくろも初体験でした。窯の火入れは6月下旬、どんな器に焼き上がるか、こちらも楽しみです。

これからも理学部は、学生の積極的な留学を応援し、国際感覚を兼ね備えた人材の育成に努めて参ります。今後とも同窓会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



写真左：留学生壮行会にて（左：山下美咲さん（物理・宇宙）右：山下莉歩さん（生命化学））

写真右：川辺町 山仁田の隠れ窯にて（左：中原田光男さん（日系3世・受入先は法文学部）

中央：松田カロリーナさん（4世・教育学部）右：村上奈多理さん（3世・農学部））